

新規参加の地区 SA の情報

SA いけだ 目的と活動指針

「SA いけだ」代表 重松啓司

私達有志数名がこの4月「SA いけだ」を立ち上げました。まだ生まれたての幼鳥そのものですが、未来に向かって新たな活動のキックオフと感じております。

そこで「SA いけだ」の活動目的と活動指針について、簡単に紹介をさせていただきます。

「SA いけだ」とは、SA 連絡協議会と連携し、目的は「SA 修了者が地域でボランティア活動を行う事」であって、その集団です。

主な活動指針は次の通りです。

SA 修了者の受け皿。

連絡協議会会議に参加すると共に、SA 他地区との交流を行う。

会員間の情報や意見交換、交流を行う。

会員各自のボランティア活動を促進する。

SA としての活動を各所で広めると共に、新たな SA 受講者や受講修了者を増やす一翼を担う。

研修会開催や講習会参加で、ボランティアコーディネーター並びにボランティアとしてのスキルアップを図る。

地域に対してのボランティア活動を行い、他のボランティアグループや NPO 活動推進グループ等との交流、協働を行う。

IT 活動を通じて SA 他地区やボランティアグループとの情報交流を行う。

以上の通りですが、さらに**コンセプトを一言付記させていただきますと、「SA いけだ」とは「ブラットホーム論」だと私は考えています。**

「SA いけだ」は他のボランティアグループのように特定の活動目的（例えば手話を行う、老人の世話をする、福祉活動を行う、伝承玩具や歌体操を行う、ホームステイを行う等々）が限定されず、明確ではありません。

メンバー一人一人が独自のボランティア活動に参加したり、またリーダーとして活躍している人もいます。そしてその集団なのです。

メンバー各自がそれぞれの列車を持っていると言えるのかもしれませんが、「SA いけだ」はその「ブラットホーム」的役割を果たすと考えています。

「SA いけだ」のグループメンバーは意見交換や情報交流の中から、それぞれの活動に共鳴するものがあれば、その列車に一人でも二人でも相乗りされるとよいと感じています。

その内にグループ一体となった活動が生まれてくると信じています。街のボランティアセレモニーや SA 他地区との協働活動に参加するののも一つの方法でしょう。

急ぐことなく、無理なく、より多くのグルーメンバーの共感と同意を得ながら「ステップ by ステップ」前進していく事だと考えています。今後とも皆様方のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

以上

SA いけだ 「施設訪問記」

「池田社協・池田市ボランティアセンター」が発行している広報誌「ふれあい」9月号（年4回発行）の編集担当を引き受け、6月30日以降8月13日まで編集活動を行ってきました。

その記事取材の為二度にわたり施設訪問を行いました。

まずその1度目は特別養護老人ホーム「ほほえみの園」で、そこでは様々なボランティアグループが係っておられますが、訪問した当日はその中の一つで、音楽療法を活動に取り入れておられるグループの活動取材させていただきました。

二度目は知的障害のある人の「生活支援活動」を行っている障害者施設「東山作業所」で、そこでも多数の個人ボランティアが活動をされており、ハンディを背負った利用者と共に、仕事や作業の手伝いをされていました。

私はこの体験から市内には数多くの施設があり、そこでは沢山のボランティアグループや個人ボランティアが係りをもたれ、様々な活動されていることを改めて学ばさせていただきました。

SA いけだ 重松啓司